

第2編 第2期館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略

第1節 はじめに

1. 総合戦略について

「第2期館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「第2期総合戦略」という。）は、『まち・ひと・しごと創生法』に基づき、「館山市人口ビジョン改訂版」を踏まえ、館山市における人口減少問題の克服、地方創生施策を進める上での基本目標や目指す方向性（政策分野）、具体的な施策を定めたものです。

2. 基本方針

（1）基本的な考え方

① 人口減少・少子高齢社会を見据えた持続可能なまちづくり

まちの活力を維持し、地方創生を成し遂げるため、東京都心から約1時間半という地理的優位性と恵まれた自然環境を最大限に活かし、過度な人口減少を抑えるとともに、人口減少・少子高齢社会を見据えた持続可能なまちづくりに努めます。

② まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立

若者の移住・定住の促進、安心して生活できる環境の整備、それに基づく結婚・出産・子育ての希望の実現のため、安定した「しごと」の創出が急務です。

「しごと」の創出により、館山市への「ひと」の流れを生み出し、幅広い世代が“住みたい”“住み続けたい”と思える「まち」、加えて、災害にも強い、安全・安心で、持続可能な「まち」づくりを進め、さらなる「まち」の活性化・魅力向上につながる好循環の確立を目指します。

（2）他の戦略・計画との関係

① 国及び県の総合戦略との関係

国及び千葉県の総合戦略の基本的な考え方や施策の方向性を勘案しつつ、館山市の特性を活かした施策を展開していきます。

② 『第4次館山市総合計画』との関係

平成28年度から令和7年度を計画期間とする『第4次館山市総合計画』と合わせ、総合戦略では、「人口減少問題の克服」、「まち・ひと・しごと創生」の実現に向けた施策をより重点的に進めます。

(3) 総合戦略の取組体制

① 「館山市まち・ひと・しごと創生本部」(内部組織)の設置

副市長を本部長、教育長を副本部長、全部長を本部員とする「館山市まち・ひと・しごと創生本部」を設置し、部局間の緊密な連携のもと、取組の推進を図ります。

② 「総合戦略推進組織」(外部組織)による効果検証と

PDCA^{注)}サイクルの確立

各界各層の市民代表からなる「館山市総合計画審議会」を「総合戦略推進組織」と位置付け、『第4次館山市総合計画』と合わせた進捗状況の確認・効果検証を行い、「PDCAサイクル」による取組の改善と効果的な実施に努めます。

注) PDCAサイクル

事業活動における管理業務を円滑に進めるマネジメント手法の一つ。

Plan(計画)、Do(実施)、Check(評価)、Action(改善)の4つの段階を繰り返すことにより、業務の継続的な改善を推進する。

③ 広域連携による取組の推進

広域的な対策が必要な課題への対応や、より効果的な施策の推進のため、安房地域の3市1町を始めとした地域間の連携を図り、実効性の高い取組を推進します。

④ 支援制度の積極的活用

国の地方創生交付金などの財政支援、「地方創生コンシェルジュ制度^{注)}」などの人的支援を始め、国や県等の支援制度を積極的に活用します。

注) 地方創生コンシェルジュ制度

地方公共団体が地方創生の取組を進めるにあたり、国が各府省に担当窓口となる職員を選任し、積極的に支援するために設置した相談窓口。

⑤ 新たな時代の潮流への対応

国が推進するSDGsやSociety5.0、女性活躍など、新たな時代の潮流に対応した施策を充実させていきます。

注) SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)

2015年の国連サミットで採択された、2030年を期限とする国際社会全体の開発目標「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、広範な課題に統合的に取り組むこととされており、17のゴール(目標)と169のターゲットが設定されている。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



1	貧困	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる
2	飢餓	飢餓を終わらせ、食糧安全保障および栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
3	保健	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
4	教育	すべての人々への包括的かつ公平な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する
5	ジェンダー	ジェンダー平等を達成し、すべての女性および女子のエンパワーメントを行う
6	水・衛生	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
7	エネルギー	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な現代的エネルギーへのアクセスを確保する
8	経済成長と雇用	包括的かつ持続可能な経済成長、およびすべての人々の完全かつ生産的な雇用とディーセント・ワーク（適切な雇用）を促進する
9	インフラ、産業化、イノベーション	レジリエントなインフラ構築、包括的かつ持続可能な産業化の促進、およびイノベーションの拡大を図る
10	不平等	各国内および各国間の不平等を是正する
11	持続可能な都市	包括的で安全かつレジリエントで持続可能な都市および人間居住を実現する
12	持続可能な生産と消費	持続可能な生産消費形態を確保する
13	気候変動	気候変動およびその影響を軽減するための緊急対策を講じる
14	海洋資源	持続可能な開発のために海洋資源を保全し、持続的に利用する
15	陸上資源	陸域生態系の保護・回復・持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・防止および生物多様性の損失

		の阻止を促進する
16	平和	持続可能な開発のための平和で包括的な社会の促進、すべての人々への司法へのアクセス提供、およびあらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包括的な制度の構築を図る
17	実施手段	持続可能な開発のための実施手段の強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

注) Society5.0

「狩猟社会」「農耕社会」「工業社会」「情報社会」に続く、人類史上 5 番目の新たな社会を指し、政府が提唱する目指すべき未来社会のこと。先端技術（AI、ロボット、ドローン、自動運転など）を取り入れ、誰もが快適で活力に満ちた質の高い生活を送れるような社会の実現を目指す。



出典：内閣府 HP

3. 総合戦略の計画期間

令和2年度から令和7年度までの6年間とします。

4. 総合戦略の構成

(1) 基本目標

市の特性を踏まえて設定した第1期総合戦略の内容を踏襲します。

- ◆ “海”の魅力に磨きをかける ～ 海の魅力アップ ～
- ◆ “食”の豊かさで人をひきつける ～ 食の豊かさアップ ～
- ◆ “若者”の夢と希望をかなえる ～ 若者の元気アップ ～
- ◆ 未来に誇れる“ふるさと愛”をはぐくむ ～ ふるさとへの誇りアップ ～

(2) 目指す方向性（政策分野）と講ずべき施策

国の総合戦略が定める政策分野を勘案し、基本目標に対する目指す方向性（政策分野）と、そのために講ずべき施策を体系づけて定めます。（1ページ概要参照）

目指す方向性（政策分野）

「しごと」の創出 : 館山市の特性を活かした多様な「しごと」の創出

「ひと」の流れ : 館山市への「ひと」の流れをつくる

結婚・出産・子育てのしやすい「まち」 : 結婚・出産・子育てのしやすい「まち」づくり

持続可能な「まち」 : 安全・安心で、持続可能な「まち」づくり

(3) 具体的な施策内容（主な事業等）

講ずべき施策について、計画期間（6年間）のうちに実施する具体的な施策内容（主な事業等）を定めます。

(4) 数値目標・重要業績評価指標（KPI）^{注）}の設定

基本目標ごとに、目指す方向性（政策分野）についての「数値目標」を設定します。

また、基本目標に対する各施策の効果を客観的に検証するため、講ずべき施策ごとに「重要業績評価指標（KPI）」を設定します。

なお、いずれの場合も、特に記載がない場合、基準値は平成30年度の実績、目標値は令和7年度の指標を示しています。（「6カ年累計」と記載されているものは、計画期間である令和2年度から令和7年度までの累計値を示します。）

注）重要業績評価指標（KPI）

Key Performance Indicator の略称。

事業ごとの目標の達成度合いを確認するための指標。

第2節 施策の展開

基本目標 ①

“海”の魅力に磨きをかける ～海の魅力アップ～

館山市は、東京都心から約1時間半というアクセス性を有し、豊かな自然に恵まれ、とりわけ風光明媚な海と海岸は、古くから、多くの人々を魅了し、市民の生活にさまざまな恵みをもたらしてきました。

内湾と外洋、暖流と寒流といった変化に富んだ館山の海は、水上バイクやスキューバダイビングを始め、近年盛んになってきているシーカヤック*やスタンドアップパドルボード*などのマリンスポーツ、夏の海水浴の適地として知られています。

また、2012年にASTCトライアスロンアジア選手権や、2018年には、パンパシフィック水泳競技大会 OWS など国際大会が開催されました。

館山湾の南側に位置する沖ノ島は、海面下にあるおよそ8000年前の縄文時代の遺跡や世界的にも注目されている北限域のサンゴをはぐくむ貴重な自然を有しており、それらの歴史や自然に親しむこともでき、ビーチコーミング*などの新たな魅力も生み出しています。

また、南欧風の建物が建ち並ぶ北条海岸から波静かな鏡ヶ浦越しに望む富士山は、全国に誇れる絶景で、特に、夕景の富士はロマンティックな雰囲気醸し出します。

こうした“海”の魅力は、市民の宝であり大切な財産です。

“海”の魅力にさらに磨きをかけ、「館山ならではの」、「館山でしかできない」、「館山らしさ」を追求し、近隣市町と広域的な連携を図りながら広く発信し、多くの人々や企業を呼び込み、既存の観光産業や飲食・サービス業等のビジネスチャンスを創出・拡大するとともに、起業支援やリノベーション*まちづくりにも力を入れ、新たな仕事の創出、地域経済の活性化を図っていきます。

数値目標

目指す方向性	指標	基準値	目標値
「しごと」の創出	企業誘致件数 <small>注)</small>	0 件	(6カ年累計) 5 件
	起業・創業者数 <small>注)</small>	8 人	(6カ年累計) 50 人
「ひと」の流れ	観光入込客数	207.5 万人	230 万人
	宿泊客数	42.2 万人	50 万人
	移住者数	49 人	(6カ年累計) 300 人

注) 業種・分野を特定しない。

➡ マリンレジャー関連産業等の誘致

「しごと」の創出



館山の海は、海水浴以外にも多様なマリンレジャーが体験できる環境があります。

このような恵まれた環境を活かし、マリンレジャー関連産業（マリンスポーツ関連を始め、海の魅力を活かした飲食業・宿泊業・旅行業等、観光産業を含む）等に対する情報発信やトップセールス※を行い、企業誘致を積極的に推進していきます。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

■ 企業誘致推進

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
企業訪問（トップセールス）件数 注）	37 件	（6 年累計） 240 件

注）業種・分野を特定しない。

➡ 海の魅力を活かしたビジネスの起業・創業支援

「しごと」の創出



海に関連したビジネスの起業・創業に対し、館山市起業支援補助金や融資制度などによる支援を行います。また首都圏に近い海辺のリゾート地の特性を活かし、IT 企業等のサテライトオフィス※の誘致を進め、館山の海の魅力向上と地域経済の活性化を図ります。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

■ 館山市起業支援補助金

■ 創業支援セミナー

■ 新たな起業支援策の検討

■ IT 企業等のサテライトオフィスの誘致

■ 館山市中小企業融資制度

■ 起業家交流会

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
起業・創業支援者数 注）	16 人	（6 年累計） 100 人

注）業種・分野を特定しない。

観光関連事業従事者の確保支援

「しごと」の創出



館山市の優れた地域資源を活かし、来訪者のニーズに対応した「おもてなし」の心あふれる、魅力ある観光地「観光立市たてやま」の確立のため、観光関連事業従事者の確保を支援します。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

■ 観光関連事業従事者の確保支援

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
求職セミナー開催数（注）	2回	（6カ年累計） 12回

注）観光関連事業従事者以外を対象とするセミナーを含む。

水産業の振興

「しごと」の創出



市内3漁業協同組合の合併を促進し、漁協の経営基盤の強化を図るとともに、新規漁業就業者の増加に向けた取組や、漁港の多目的利活用の促進等により、漁港を中心としたにぎわいの創出、地域の活性化を図ります。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 漁協合併の推進
- 漁業経営支援
- 漁港利活用の促進
- 船形漁港周辺の活性化

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
新規漁業就業者数	—	（6カ年累計） 18人

➡ 海の魅力を活かしたシティセールス※

「ひと」の流れ



多様性に満ちた館山の海の魅力を活かし、報道機関への積極的な情報提供やフィルムコミッション※の強化を図るとともに、ホームページやSNS※、動画配信など、多様な情報媒体による魅力発信に努めます。

また、令和元年度の台風の風評被害等により観光客の減少が予想されることから、県や近隣市町と連携した広域的な情報発信により、安房地域が一体となった効果的なPR活動を行います。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

- パブリシティ※と多様な情報媒体による積極的な情報発信
- 広域連携による一体的な情報発信

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
館山市公式ホームページ閲覧件数	246 万回	300 万回
フェイスブック※の“いいね”件数	2,200 件	2,000 件
パブリシティによる報道機関への事前リリース件数 注)	330 件	400 件

注) 分野を特定しない。

➡ 海と暮らすライフスタイルの提供による移住・定住促進

「ひと」の流れ



東京都心から約1時間半というアクセスの良さ、年間を通じた温暖な気候、海の魅力と豊かな自然環境を有する館山市は、移住・定住だけでなく、二地域居住※にも適した場所です。

海のもたらす恵みを享受し、ゆとりと潤いのある「館山ならではの」、海と暮らすライフスタイルやテレワーク※を活用した二拠点居住やデュアルワーク※を提案し、館山市への人の流れを生み出すため、関係人口※の拡大、UJIターン※を含む移住相談体制の充実、移住希望者への支援強化、移住しやすい環境の整備、空き家バンク制度※の利用促進、移住・定住に係る情報提供・PRの強化を図ります。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 移住に係る相談体制の充実
- 移住しやすい環境の整備
- 空き家活用プロモーションの推進
- テレワークの活用
- 移住希望者への支援強化
- 空き家バンク制度の利用促進
- 海の魅力を活かした定住促進

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
移住相談件数	283 件	300 件

➡ 海の魅力をテーマとした外国人観光客の誘致

「ひと」の流れ



成田・羽田両国際空港から2時間以内という地理的優位性と、鏡ヶ浦越しに望む夕景の富士や「鮫の町・館山」など、外国人観光客の興味・関心をひきつけることができる館山市の潜在力を十分に発揮し、インバウンド※を強化していくため、観光スポットや飲食店・宿泊施設等を掲載した外国語パンフレットの作成や体験観光のブラッシュアップ※による観光メニューの充実、外国人向けモニターツアー※の実施など、外国人観光客の受入態勢の充実を図ります。

特に、台湾との交流が活発になってきていることから、台湾をメインターゲットとしたインバウンドを推進し、外国人宿泊者数の増加を図ります。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 外国人観光客向け情報発信の強化
- 外国人観光客向け観光メニューの充実
- 外国人観光客の受入態勢の整備
- トップセールスによる台湾旅行会社や政府関係者との人脈形成強化

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
外国人宿泊客数	1,669 人	2,200 人

➡ 安心して楽しめる海の魅力の向上

「ひと」の流れ



魅力あふれる館山の海を、安心して存分に楽しめるように、海岸利用者のマナー向上対策や津波対策を強化し、安全・安心な環境を確保します。

また、陸と海を結ぶ交流拠点「“渚の駅” たてやま」（国土交通省「みなとオアシス※」認定）の機能強化、旅客船の定期航路化や寄港船舶の増加に向けたポートセールス※、沖ノ島の貴重な自然資源保護のための取組等により、海の魅力のさらなる向上を図ります。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 津波対策の強化
- 交流拠点「“渚の駅” たてやま」の機能強化
- 館山港の整備・利用の促進
- 海岸利用者のマナー向上対策
- 海路の充実
- 沖ノ島の環境の整備

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
「“渚の駅” たてやま」年間来館者数	38.2 万人	50 万人

➡ 個性豊かな海の魅力を活かした観光振興

「ひと」の流れ



館山市の重要な観光資源である美しい砂浜・海岸を維持し、海水浴を始めとするマリニレジャーやブルーツーリズム※の推進を図るとともに、「ウミホテル観察会」や「釣り大会」などの海を活用した事業の開催、「館山湾花火大会」や「南総里見まつり」、「たてやま海まちフェスタ」など、館山市ならではの特色あるイベントの開催により、観光振興を図ります。

また、北条海岸芝生広場などの海岸エリアにおける美と健康・食をテーマとしたにぎわいの創出、海岸線を巡るサイクリングコースの環境整備、レンタサイクル乗り捨てシステムの活用等により、地域資源に磨きをかけ、館山市への交流人口の増加を促します。

特に、サイクルツーリズムについては、JR 東日本 B. B. BASE※を始めとした民間企業等と、安房3市1町が一体となった広域的な連携のもと、推進していきます。

「海と暮らす いくつものまちなみ 館山」を景観形成の基本目標として策定した「館山市景観計画」に基づき、自然景観の保全や重点地区となる館山駅西口地区における南欧風の街並み景観の創出など、景観まちづくりを推進します。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

- マリニレジャーを活用した観光振興
- ブルーツーリズムの推進

- 観光関連事業者への支援
- サイクルツーリズムの推進

- 海岸利活用事業
- 景観まちづくりの推進

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
レンタサイクル貸出台数	4,806 台	5,000 台

➡ オリンピック・パラリンピックの

「ひと」の流れ

レガシー（遺産）※を見据えたまちづくり



館山市を拠点に USA トライアスロン、オランダトライアスロンの両チームが事前キャンプを実施した実績から、東京オリンピック・パラリンピック後も、館山市の魅力の一つである海を始めとする豊かな自然環境や、トップアスリートが実際にトレーニングを実施したコースや既存施設などを最大限有効活用した、各種キャンプ誘致やスポーツイベントの支援、スポーツ観光等を推進し、交流人口の増加による経済振興を図ります。

また、「スポーツ健康都市宣言」を契機として、更に市民のスポーツへの関心を高め、健康・福祉の増進など、あらゆる分野と連携したスポーツによるまちづくりを進め、2020 年以降も未来の市民が誇りに思うレガシー（遺産）の創造と継続的なまちの活性化を図ります。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

- オリンピック・パラリンピックのレガシー（遺産）を見据えたまちづくり
- 館山若潮マラソン大会の魅力向上
- スポーツイベントの開催

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
スポーツ観光客数	35.2 万人	37.7 万人

基本目標 ②

“食”の豊かさで人をひきつける ～食の豊かさアップ～

館山市は、温暖な気候と緑豊かな大地、沖合いには黒潮と親潮がぶつかる豊かな漁場を有することで、多彩な“食”の恵みを享受してきました。

この地域の豊かで多彩な食材を、観光客への「おもてなし」としてさらに活かし、観光の目的の一つである“食”の魅力を高めることは、「観光立市たてやま」の確立において、必要不可欠と言えます。

豊かな農水産資源を観光・産業面で活かすことは、地域外からの収益の増加だけでなく、地域内でのモノ・カネの循環を活発化させ、農水産業の6次産業化※、農水商工連携、地産地消などを推進し、農水産業を力強い産業へと押し上げるとともに、地域経済そのものを発展させ、新たな仕事の創出や関係人口の増加にもつながっていきます。

このような好循環を生み出すため、館山の“食”の恵みを地域内で流通させる体制を構築するとともに、生産者の経営基盤を強化し、生産力・供給力の向上を図ります。

また、市民や市内事業者等へ、地域の食材・食文化に対する理解を促進し、その素晴らしさを次世代や来訪者に伝えていくことで、市民が「館山の食べ物はおいしい」と全国に誇れるまち、また、来訪者から「館山のおいしい食べ物をまた食べに行きたい」と思われるまちを目指します。

● 数値目標

目指す方向性	指標	基準値	目標値
「しごと」の創出	【再掲】起業・創業者数 ^{注)}	8人	(6カ年累計) 50人
「ひと」の流れ	【再掲】観光入込客数	207.5万人	230万人
持続可能な「まち」	直売所における農水産物の販売額	—	3.8億円

注) 業種・分野を特定しない。

➡ 「食のまちづくり」による農水産業の魅力向上

「しごと」の創出



地域で生産される多彩で豊かな農産物や新鮮な海産物などを活かし、**産官学の連携による**農水産資源のブランド化・高品質化を推進する**調査研究**の取組や農水産物の販路拡大、加工品の開発を支援するとともに、「食のまちづくり」拠点施設の整備を推進し、農水産物の収益拡大、農漁業者の経営安定化を目指します。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 農水産物のブランド化推進
- **産官学連携による食の魅力創造**
- 農水産物等の加工品開発支援
- 食のまちづくり拠点施設の整備

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
農水産物等の加工品開発数	0 品目	(6 力年累計) 5 品目
産官学連携による食の魅力の研究拠点の形成	0 件	1 件

➡ 食に関するビジネスの起業・創業支援

「しごと」の創出



市民にも都市部の住民にも高く評価されている館山の食の豊かさは、館山の強みです。食材の宝庫としての魅力を活かし、食に関するビジネスの起業・創業**に対し、館山市起業支援補助金や融資制度などによる支援を行い、**地域経済の活性化と新たな雇用の場の創出を図ります。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

- **館山市起業支援補助金**
- **館山市中小企業融資制度**
- **創業支援セミナー**
- **起業家交流会**
- **新たな起業支援策の検討**
- **地域商社の設立**

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
【再掲】 起業・創業支援者数 注)	16 人	(6 力年累計) 100 人
地域商社の設立	0 件	1 件

注) 業種・分野を特定しない。

➡ 農業の成長産業化支援

「しごと」の創出



農業生産者が主体となり、加工・販売等の事業者と連携しながら、農産物の付加価値向上を目的とした6次産業化※の推進や、農業の新たな担い手の育成確保、経営基盤強化としての企業参入の推進、農業法人化、地域ぐるみの組織的な農業経営体の育成・確保、グリーンツーリズム※の推進、IT技術やAIの活用等により、農業の成長産業化を支援します。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 6次産業化の推進
- 農業の担い手育成確保と組織的な営農スタイルへの後押し
- グリーンツーリズムの推進
- スマート農業※の推進

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
食のまちづくりイベント来場者数（1 回当たり）	2,250 人	2,500 人
認定農業者数	121 人	135 人
市内農業法人数	15 法人	20 法人

➡ 豊かな食の恵みを活かしたシティセールス※

「ひと」の流れ



ご当地グルメや房州いちご、神戸レタス、房州枇杷、房州鯔など、ブランド力のある豊かな食の恵みを活かし、報道機関への積極的な情報提供やフィルムコミッション※の強化、各種キャンペーンの実施、マスコットキャラクター「ダッペエ」の活用によるプロモーション※など、積極的な情報発信に努めるとともに、広域連携による一体的な情報発信を行います。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

- ブランド力のある観光資源の積極的なPR
- パブリシティ※と多様な情報媒体による積極的な情報発信
- 広域連携による一体的な情報発信

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
【再掲】 館山市公式ホームページ閲覧件数	246 万回	300 万回
【再掲】 フェイスブック※の“いいね”件数	2,200 件	2,000 件
【再掲】 パブリシティによる報道機関への事前リリース 件数 注)	330 件	400 件

注) 分野を特定しない。

➡ 農業生産基盤の維持・保全

持続可能な「まち」



農業生産者の高齢化や担い手不足により、耕作放棄地が拡大しています。

また、イノシシなどの有害鳥獣による農作物の被害は年々増加傾向にあります。

「食のまちづくり」を進める上で、農業生産基盤を維持・保全し、生産力の強化を図ることは極めて重要です。

耕作放棄地の発生防止や解消に努め、意欲ある農業経営者への優良農地の集積・集約化を促進するとともに、有害鳥獣対策を強化していきます。

また、令和元年度の台風被害からの復興を進め、農業生産基盤の回復・維持に努めます。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 有害鳥獣対策事業
- 農地の保全と有効活用
- 館山市狩猟免許取得等補助金
- 台風被害の復興促進

重要業績評価指標（K P I）	基準値	目標値
耕作放棄地	389ha	351ha
防護柵の設置補助	18,430m	（6カ年累計） 60,000m
新規捕獲従事者数	21人	（6カ年累計） 60人

➡ 館山の安全・安心で恵まれた食材による

持続可能な「まち」

食育と地産地消の促進



農水産業の果たしている多面的な役割や健康と生命を支える食の大切さ、地域の食文化への理解、安全・安心な食材による地域への誇りなどを深めるため、市民への食育の推進を図るとともに、年間を通じて、地域の農水産物を地域で活用できる環境を整備し、地産地消の推進、地域内流通の活性化、農水産物の消費拡大を図ります。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 地域内流通の活性化による地産地消の推進
- 地域における食育の推進

重要業績評価指標（K P I）	基準値	目標値
地産地消推進店※数	138店	170店

基本目標 ③

“若者”の夢と希望をかなえる ～若者の元気アップ～

館山市の将来を担う“若者”は、館山を元気にする原動力です。

『第4次館山市総合計画』を策定するにあたり、平成26年11月に、安房地域に所在する8つの高等学校等の2年生を対象に実施した高校生アンケートでは、「今住んでいる地域が好き」な生徒は約6割（59.3%）を占め、「地元で就職したい」と思う生徒は4割強（43.6%）であることがわかりました。※修正予定

しかし、これら生徒の多くが、高校を卒業すると大学等への進学や就職により市外に転出してしまいます。就職については、現在、有効求人倍率は県内でも高く、求人の多い地域と言えますが、その多くが、看護職・介護職などの医療・福祉系サービス業や観光・飲食サービス業に偏っており、“若者”の多様な就業ニーズと合致していないため、市外へと職を求めて転出するものと考えられます。

一方で、館山市は近年、都市住民等の移住が増えてきており、特に、若い子育て世代の移住者が多いことが特徴です。

館山市は、地元で育った若者たちが、地域に強い愛着を持っているだけでなく、都市部の若者からも選ばれる、高い潜在力を有していると考えられます。

この潜在力を十分に活かし、館山で生まれ育った若者が、本人の希望どおり、館山に残ることができる、あるいは、戻ってくることができる、さらには、都市住民等から選ばれ、移住してきてもらうためには、魅力ある就業の場の確保が何よりも重要です。

そこで、多様な就業の場の創出、起業や創業にチャレンジする若者への積極的な支援、職業のマッチング※などにより、“若者”の夢と希望をかなえ、経済的・精神的に安定できる仕事の確保に努めます。

また、若者のアイデア・行動力を活かし、まちの活性化を図るとともに、結婚・出産・子育ての希望をかなえるため、「切れ目のない」一貫した支援体制を構築し、豊かで充実した生活を送れるよう、市を挙げて若者の定住促進に取り組みます。

● 数値目標

目指す方向性	指標	基準値	目標値
「しごと」の創出	【再掲】企業誘致件数 ^{注)}	0件	(6カ年累計) 5件
	【再掲】起業・創業者数 ^{注)}	8人	(6カ年累計) 50人
「ひと」の流れ	【再掲】移住者数	49人	(6カ年累計) 300人
結婚・出産・子育ての しやすい「まち」	合計特殊出生率※	(H29年) 1.46	1.629
	出生数	(H29年) 271人	220人

注) 業種・分野を特定しない。

➡ 若者の希望に応える雇用環境の創出

「しごと」の創出



企業誘致を推進するためのトップセールス※の実施や市内企業に関する情報の収集・提供、市内進出を希望する企業へのフォローアップ※など、多様な職種選択等に対応できる雇用対策に取り組み、若者の希望に応えるため、安定した仕事の創出に努めます。

また、テレワークなどの通信技術を駆使して、場所や時間を選ばない柔軟な働き方を
目指す企業の合宿やサテライトオフィスの誘致・コワーキングスペースの創出など、多
様な雇用環境の創出に努めます。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 企業誘致推進
- 新たな雇用の創出

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
【再掲】 企業訪問（トップセールス）件数 注）	37 件	（6 力年累計） 240 件

注）業種・分野を特定しない。

➡ チャレンジする若い起業者・創業者への支援強化

「しごと」の創出



館山市起業支援補助金や融資制度の活用に加え、起業・創業に関する情報やノウハウを豊富に有する千葉県よろず支援拠点（公益財団法人千葉県産業振興センター）等を活用し、館山商工会議所や日本政策金融公庫・金融機関等と連携し、地域における起業・創業希望者を支援します。

また、リノベーションまちづくりの実践により、チャレンジする若い起業・創業希望者が起業しやすい環境づくりを推進します。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 館山市起業支援補助金
- 館山市中小企業融資制度
- 創業支援セミナー
- 起業家交流会
- 新たな起業支援策の検討

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
【再掲】 起業・創業支援者数 ^{注）}	16人	（6カ年累計） 100人

注）業種・分野を特定しない。

➡ 雇用の需要と供給のマッチング*強化

「しごと」の創出



館山市の有効求人倍率は県内でも上位を占めるものの、特定の職種、勤務形態に偏っていることから、求職者の希望する仕事とのミスマッチ*が生じています。

そのため、ハローワークや近隣市町と連携したセミナーや安房地域で就職を希望する移住希望者（学生を含む）と地元企業とをマッチングさせるイベントの開催、地域の雇用ニーズを捉えた人材育成を行うことにより、求人・求職のミスマッチ解消に努めます。

また、館山市内の高等学校等とテレワークなどを活用した企業合宿に参加する企業が連携して、実践的な職業教育活動などができる環境整備を検討していきます。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 就業支援の強化
- 地域の雇用ニーズを捉えた人材育成

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
【再掲】 求職セミナー開催数	2回	（6カ年累計） 12回

➡ 商業・工業の活性化によるまちの元気創造

「しごと」の創出



民間主導型で空き店舗の活用や起業家とのマッチングによりまちを活性化するリノベーションまちづくりの実施や商店街のキャッシュレス化等の環境整備の推進など、市・商工会議所・商店街・地域おこし協力隊*等と連携し、地域の商店及び商店街の魅力を高める取組を支援するとともに、商業・工業などの事業承継の取組を支援し、商工関係団体や中小企業事業者の組織強化、経営安定化に向けた支援や令和元年度の台風被害から復興促進により、地域経済の活性化・発展を目指します。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

- エリアリノベーションまちづくりの実践
- 中小企業・商工団体支援

- 商業・工業の競争力強化支援
- 事業承継事業の推進
- キャッシュレス化の推進
- 台風被害からの復興促進

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
空き店舗有効活用数	3件	(6カ年累計) 18件

➡ 若者のアイデア・行動力を活かした地域活性化の推進



「ひと」の流れ

地域おこし協力隊※を始めとした、集落支援員※、復興支援員※、地域人材ネット※、地域おこし企業人※などあらゆる人材活用制度の活用、館山市で生まれ育った若者の交流機会の創出、地域で活躍する若者のネットワーク化等により、若者のアイデア・行動力を活かした地域活性化を推進するとともに、若者の地元定着及びUJターン※等の促進を図ります。

また、地域や地域の人と多様に関わることを求める都市住民等に対して、地域づくりに関わる機会を提供するなど、「関係人口」の創出・拡大を目指します。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 地域おこし協力隊等の活用による地域活性化の促進
- 若者の交流機会の創出
- 「関係人口」の創出・拡大

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
地域おこし協力隊員等委嘱者累計数	15人	24人

➡ 出会い・婚活支援

結婚・出産・子育てのしやすい「まち」



社人研の出生動向基本調査（2015年）（以下「出生動向基本調査」という。）によれば、我が国の独身男女の約9割は結婚の希望を持つとされますが、出会いの場の減少や晩婚化の進展などにより、希望を実現できていないのが現状です。

結婚に対する希望を実現させるため、既存の観光資源を連携させ、地域の新たな魅力づくりによる**関係**人口の増加等を目指す「恋人の聖地※」の活用や、出会い・婚活事業の支援などにより、独身男女の出会いの場を提供するとともに、地域の活性化や移住・定住の促進、結婚奨励による少子化対策を図ります。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 出会い・婚活事業の支援
- 「恋人の聖地※」プロジェクト

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
出会い・婚活支援事業開催数	1 回	(6 カ年累計) 6 回
「恋人の聖地」パスポート優待特典店舗・施設数	10 店舗等	16 店舗等

➡ 安心して妊娠・出産できる環境づくり

結婚・出産・子育てのしやすい「まち」



出生動向基本調査によれば、夫婦の理想子ども数は 2.32 人、予定子ども数は 2.01 人と、いずれも過去最低となり、今後も減少傾向が続くと予想されます。

将来的に館山市の出生数を増やしていくためには、出生に関する希望を実現させることが重要であり、若い世代を対象とした妊娠・出産に関する正しい知識の普及・啓発や、妊娠・出産・子育てに係る相談体制の強化、産前・産後サポートの充実を図り、安心して妊娠・出産できる環境づくりを目指します。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 妊娠・出産・子育てに係る相談体制の強化・充実
- 妊娠・出産に関する正しい知識の普及・啓発
- 産前・産後サポートの充実

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
妊娠・出産を取り巻く社会的障壁を取り除くための意識啓発の場の設定	100%	100%
ファミリー学級参加者へのアンケート「満足度」割合	—	「概ね満足」「満足」が 80%以上

➡ “子育てが楽しくなる” 子育て支援の強化

結婚・出産・子育てのしやすい「まち」



保育園・幼稚園・こども園施設の整備充実を図るとともに、延長保育や土曜保育、預かり保育の充実、親子の交流拠点施設としての「元気な広場※」の機能強化、ファミリー・サポート・センター事業※の充実、三世代同居・近居の推進、働きやすい環境の整備、学童クラブの安定的な運営・支援等により、子育てに関する精神的負担を軽減し、“子育てが楽しくなる” 子育て支援の強化を図ります。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 保育園・幼稚園・こども園施設の整備充実
- 保育サービスの充実
- 子育て相談体制の強化・充実
- 「元気な広場」の機能強化
- 子育てネットワークの構築
- ファミリー・サポート・センター事業※の充実
- 三世代同居・近居の推進
- 働きやすい環境の整備
- 学童クラブの安定的運営

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
ファミリー・サポート・センター会員数	490 人	600 人

➡ 地域ではぐくむ教育環境の整備

結婚・出産・子育てのしやすい「まち」



放課後子供教室※の推進や図書館の児童サービスの充実等により、未来を担う心豊かで健やかな子どもを地域ではぐくむ環境づくりに努めるとともに、市内高校のブランド化に向けた支援の検討や館山市内に研究施設やセミナーハウスを持つ大学等と連携した教室の開催など、地域の教育力向上を目指します。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 放課後子供教室の推進
- 図書館の児童サービスの充実
- 市内高校のブランド化に向けた支援の検討
- 市内に施設を有する大学等と連携した教室の開催

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
放課後子供教室と学童クラブの一体的な実施箇所数	1カ所	8カ所

▼ 女性活躍の推進

持続可能な「まち」



人口減少や少子高齢化、働き方の多様化などに伴い、労働力不足の加速化が予想されます。この状況を解決するために、結婚や育児などをきっかけに離職した女性にもう一度社会に出て活躍してもらうことで、労働力の向上や多様なニーズへの対応、業務の効率化などが期待されますが、平成 29 年度に実施した「館山市男女共同参画市民意識調査」の結果では、“家事等の役割分担が女性側に偏っている”、“女性自身が女性リーダーになれないと考えている傾向がある”、“家事・育児・介護の負担や職場での理解不足が女性が働き続ける上での障壁となっている”など、いまだ女性がライフ・ワーク・バランス（生活と仕事の調和）を維持するための環境は十分に整っているとは言えません。女性が仕事と生活を両立でき、いきいきと暮らせる社会を目指します。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 男女共同参画社会の実現に向けた取組
- 女性活躍支援

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
市の審議会等における女性委員割合	27.80%	30%

基本目標 ④

未来に誇れる“ふるさと愛”をはぐくむ

～ふるさとへの誇りアップ～

地域活性化の主役は、館山で暮らし、活動する市民です。

そして、その原動力は、「館山をもっと良くしたい」という熱い思いであり、“ふるさと”に対する誇りと愛着心です。

<※市民意識調査結果を盛り込む予定>

「館山市人口ビジョン改訂版」で示すように、館山市の人口は今後も減少が見込まれ、高齢化も進行します。

そのような状況において、まちの活力を維持し、笑顔あふれる元気なまちをつくっていくためには、市民相互の支え合いや市民と行政との協働、地域課題の解決に向けた市民の取組など、市民の主体的な活動なくしては成り立ちません。

そこで、“ふるさと館山”に対する誇りと愛着心をはぐくみ、地域の主体として市民が積極的にまちづくり・地域づくりに参加できる環境と、地域が一体となって支え合う体制を整備していきます。

また、将来の人口規模を見据え、行政サービスのあり方を見直し、効率的な行政運営の実現に努めていくとともに、住み慣れた地域で元気に暮らし続けることができるよう、安全・安心なまちづくり、医療・福祉の充実と健康増進活動の推進、公共交通網の構築などに継続して取り組んでいきます。

● 数値目標

目指す方向性	指標	基準値	目標値
「しごと」の創出	介護職員初任者研修受講費等助成金交付対象者のうち研修受講終了により介護職員に新規就業した者	1 人	(6 力年累計) 12 人
「ひと」の流れ	【再掲】移住者数	49 人	(6 力年累計) 300 人
結婚・出産・子育てのしやすい「まち」	【再掲】合計特殊出生率※	(H29 年) 1.46	1.629
	【再掲】出生数	(H29 年) 271 人	220 人
持続可能な「まち」	常住人口	(H31 年 4 月) 45,441 人	(R7 年 4 月) 43,335 人
持続可能な「まち」	市民アンケート「災害対策を講じている市民」割合	未判明	検討中

➡ 医療・介護・福祉人材の確保支援

「しごと」の創出



超高齢社会において、医療・介護・福祉分野の充実は、重要な課題です。

安房地域の医療福祉体制は全国的にも恵まれており、地域の就業の場としても重要な位置付けとなっていますが、看護師や介護士などの担い手不足が深刻化してきており、全国的な人材の奪い合いとなっています。

このため、看護師等修学資金の貸付や介護職員初任者研修費用の一部助成により、看護師や介護士等の確保、施設等における雇用確保を図ります。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 医療・介護・福祉人材の確保に向けた支援

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
介護職員（初任者・実務者）研修受講費等助成金交付実績	18人	（6カ年累計） 120人

➡ シティプロモーション※による館山の魅力向上

「ひと」の流れ



地域の誇りは、地域の魅力につながります。

地域に根ざした歴史文化遺産や民俗芸能など、館山市ならではの魅力を、報道機関への積極的なアプローチやフィルムコミッション※、ホームページやSNS※など、多様な媒体を利用して市内外へ情報発信することで、交流人口の増加を図るとともに、市民の地域への誇りと愛着心のさらなる醸成に努めます。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 観光スポットとしての歴史文化遺産の活用
- 市指定無形民俗文化財等の映像記録や解説書の作成
- 市民との協働による館山の魅力発信
- パブリシティ※と多様な情報媒体による積極的な情報発信
- 広域連携による一体的な情報発信
- ふるさと納税及び企業版ふるさと納税の推進

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
【再掲】 館山市公式ホームページ閲覧件数	246 万回	300 万回
【再掲】 フェイスブック※の“いいね”件数	2,200 件	2,000 件
【再掲】 パブリシティによる報道機関への事前リリース 件数 注)	330 件	400 件
ふるさと納税返礼品として登録する地場産品	160 品目	300 品目

注) 分野を特定しない。

➡ 市民スポーツの振興

「ひと」の流れ



生涯スポーツの機会拡充や社会体育団体の育成・支援、社会体育施設の整備充実、学校体育施設の開放など、市民スポーツの振興を図り、市民の健康体力の保持増進と地域の活性化を促します。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 生涯スポーツの機会拡充
- 社会体育団体の育成支援
- 社会体育施設の整備充実
- 学校体育施設開放

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
スポーツ関連イベントの参加者数	1.9 万人	2.2 万人

➡ 「生きる力」と「郷土愛」の育成

結婚・出産・子育てのしやすい「まち」



次世代を担う「人」づくり、郷土意識・地域への愛着心を持った児童生徒の育成を図るため、確かな学力、豊かな心、健やかな体を基盤とした「生きる力」を育成する教育の推進、「ふるさと」の歴史・文化・自然など、地域の魅力に関する教育の強化、電子黒

板※の導入などＩＣＴ※（情報通信技術）活用による教育環境の構築、学校における食育を推進します。

また、「人」の「生きる力」を未来に伝えていくため、貴重な歴史遺産としての戦争遺跡の保全に努めます。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 「生きる力」を育成する教育の推進
- 「ふるさと」の魅力に関する教育の強化
- ＩＣＴ活用による教育環境の構築
- 学校における食育の推進
- 貴重な歴史遺産としての戦争遺跡の保全

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値
ＩＣＴを活用した授業割合	11%	20%

➡ ふるさとへの誇りと愛着心をはぐくむ教育・事業の推進



結婚・出産・子育てのしやすい「まち」

館山市の自然や歴史、文化など、豊かな地域資源を活用した多種多様な生涯学習機会の提供やサークル活動の支援、生涯学習ボランティア制度の活用による学校支援活動の拡充、ふるさと体験活動の推進、森林・里山の保全に向けた活動などを通じて、地域への誇りや愛着心の醸成を図ります。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 生涯学習活動の充実
- ふるさと体験活動の推進
- 森林・里山の保全

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値
市民アンケート「館山市への愛着」割合	「愛着がある」「どちらか」というと愛着がある 未判明	「愛着がある」「どちらか」というと愛着がある 検討中

➡ 医療・介護環境の充実による健康長寿の促進

持続可能な「まち」



地域医療の安定化や地域住民の健康寿命の延伸を目指すコミュニティ医療[※]の推進、かかりつけ医[※]・かかりつけ薬局[※]の普及・定着に加え、救急医療体制の確保、地域包括ケアシステム[※]の構築、保健・医療・福祉に関する総合相談体制の整備を図るとともに、館山市に合った「日本版CCRC[※]」の導入について検討します。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 健康づくり活動の推進
- コミュニティ医療の推進
- 地域包括ケアシステムの構築
- 保健・医療・福祉に関する総合相談体制の整備
- かかりつけ医・かかりつけ薬局の普及・定着
- 救急医療体制の確保
- 「日本版CCRC」の導入検討

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
体操教室新規立ち上げ数	22 団体	（6 力年累計） 18 団体
フレイル [※] 予防教室への参加率	—	25%

➡ 館山の魅力向上に向けた環境整備

持続可能な「まち」



館山市の玄関口である館山駅東口駅前広場を整備し、安全な歩行空間の確保と車両の適正な誘導を図るとともに、市民の憩いの場や観光スポットとしても人気のある城山公園の園路や駐車場等の機能拡充及び市民・行政・企業が一体となった「花のまちづくり」の推進により、館山のまちの魅力向上に努めます。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 館山駅東口駅前広場の整備
- 城山公園の機能拡充
- 花のまちづくりの推進
- 環境美化の推進

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
城山公園の活用イベント数	11回	12回
ごみゼロ週間参加団体数	146団体	160団体

➡ 多文化共生社会の推進

持続可能な「まち」



多様化する社会状況を踏まえ、すべての市民が、国籍や宗教、言語等の違いがある外国人住民についても、対等な地域社会の構成員として受け入れることが重要です。フェアトレード商品の購入など、人、社会、環境に配慮したエシカル消費※の啓発や、国際理解教育の推進などに取り組んでいくことで、立場に関わらず、誰もが安心して暮らせる社会の実現を目指します。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 国際交流の推進
- 外国語標記による情報発信
- 国際理解教育の推進
- エシカル消費の啓発

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
新規設置看板の外国語併記割合	—	100%

➡ 分かりやすく利用しやすい公共交通網の構築

持続可能な「まち」



自家用車を持たない市民や来訪者も、ストレス無く移動できる環境づくりを目指し、「館山市地域公共交通網形成計画」に従い、市民や公共交通事業者、関係機関と連携・協議しながら、より分かりやすく、より利用者のニーズに沿った公共交通網の構築を行います。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 市街地の回遊性向上

- 観光二次交通の充実
- 公共交通空白地における、地域住民と連携した移動手段の確保
- 公共交通の「分かりやすさ・見える化」に向けた取組（MaaS※やキャッシュレス化等）

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
公共交通の利用者数（鉄道・路線バス・高速バス）	後日更新	

➡ 安全・安心なまちづくりの推進

持続可能な「まち」



市民の防災意識の向上、自主防災組織の機能強化等により、地域防災力を高めるとともに、備蓄食糧や各種資機材の整備等による災害対応力の強化、消防団活動への支援等により、防災力の強化・充実を図ります。

また、交通安全対策や防犯対策の強化、増加傾向にある空き家への対策に加え、身近な生活道路や排水整備の推進、道路等社会基盤に係る長寿命化対策の実施等により、安全・安心なまちづくりを目指します。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 地域防災力の強化
- 災害対応力の強化
- 消防団活動の充実
- 交通安全対策の強化
- 防犯対策の強化
- 空き家対策の推進
- 身近な生活道路や排水整備の推進
- 道路等社会基盤に係る長寿命化対策の実施

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
自主防災訓練実施率	36%	50%
備蓄食糧量（アルファ米※）	2.3万食分	3万食分
安全・安心メール※登録者数	14,389人	17,000人

➡ 官民・広域連携によるまちづくりの推進

持続可能な「まち」



市民やNPO、地域団体等と行政の連携を強化し、より多くの人々が参画する官民連携・協働によるまちづくりを推進するとともに、人口減少問題や地方創生など、共通する地域課題の解決や効果的かつ効率的な行財政運営、行政サービスの向上のため、国・県及び近隣市町とも連携した広域的な視点によるまちづくりを推進します。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

- 官民連携によるまちづくりの推進
- 地域間連携によるまちづくりの推進
- 多様な主体との連携によるコミュニティの活性化

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
定住自立圏構想※による連携事業数	—	検討中

※「館山市・南房総市定住自立圏構想」に係る形成協定締結以降に設定する。

➡ 地域を守るコミュニティの活性化

持続可能な「まち」



地域に住む一人ひとりが、地域の一員として生きがいを持ち、安心して暮らすことができるよう、コミュニティ事業や町内会活動を促進し、地域における支え合いや連帯感の醸成、「近所（近助）のちから」の強化により、地域の活性化を図ります。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

- コミュニティ事業の推進
- 町内会活動の促進

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
町内会加入世帯数 （参考）平成30年4月1日時点 町内会加入率 88.19% 町内会加入率 $\text{町内会加入率} = \frac{\text{町内会加入世帯数}}{\text{住民基本台帳世帯数}} \times 100$	（H30.4.1） 20,177 世帯	（R7.4.1） 20,000 世帯



将来の人口規模を見据え、長期的な視点による施設の更新・統廃合・長寿命化などを計画的に実施するため、『公共施設等総合管理計画』を策定し、財政負担の軽減・平準化を図るとともに、利用需要の変化に応じた公共施設の最適な配置を目指します。

【具体的な施策内容（主な事業等）】

■ 『公共施設等総合管理計画』に基づく施設管理

重要業績評価指標（K P I）	基準値	目標値
20 年後（令和 18 年度末時点）の公共施設等の延床面積（平成 27 年度末との比較）	0%減	20%減

※令和2年度策定予定の個別施設計画の策定後に目標値を設定する予定。